

母性
看護学方法論3 (谷口先生) 27.12.8(月)実施

1. () に適切な数字、言葉を入れよ (2点×13問=26点)

- 生後 (①) 日未満の児は、新生児とよばれる No. 氏名. 57
- 出生体重が 2500g 未満の児は、(②) と呼ばれる。②の中でも、特に、1500g 未満の児は極低出生体重児とよばれ、さらに 1000g 未満の (③) と呼ばれる
- 妊娠 (④) 週以降、37 週未満に出生した児は、早産児と呼ばれる
- 妊娠週数に相応の標準体重より著しく出生体重が小さく 10 パーセントタイルを下回る場合、このような児は (⑤) と呼ばれる。⑤のうち、さらに身長に関しても週数相応の標準から見て 10 パーセントタイル未満の場合は、(⑥) と呼ばれる
- アプガースコアとは、出生直後の新生児の状態を数値で表す方法である。所見は、(⑦) 呼吸、(⑧)、刺激に対する反応、(⑨) の 5 つで、8 点～10 点が正常である
- 正期産新生児では、生後数日の間に出生体重の 5～10% の体重減少が起こる。
これを (⑩) という。
- 新生児の原始反射のうち、頬を指先で触るとその方向を向く反射を (母親の乳首の方に向く反射) を (⑪) 反射という。また、頭部を少し持ち上げ急におろすと両上肢を広げる反射を (⑫) 反射という。
- State は 6 段階に分類され、State (⑬) を静 (ノンレム) 睡眠とし、数字があがるにつれ、児の覚醒度が上昇した状態を示す。

解答欄

①	28	②	低出生体重児	③	超低出生体重児
④	22	⑤	LFD	⑥	SFD
⑦	皮膚色	⑧	心拍数	⑨	体重
⑩	生理的体重減少	⑪	探索	⑫	モロー
⑬	1				

※ ⑦-⑩は、順不同でも可。

2. () に適切な言葉を入れよ (各2点×9=18点)

- 呼吸窮迫症候群は、妊娠35週未満で出生する早産児に多く発症される。原因は(①)の分泌欠乏である。主な症状は(②)、(③)、(④)、(⑤)である。
- 新生児メレナは新生児早期に消化管出血として発症する、基本的に予防可能な疾患であり、(⑥)の予防内服がされる。
- 遊離型ビリルビンやアンバウンドビリルビンが中枢神経系の細胞に沈着し、神経毒性からビリルビン脳症を引き起こす病的黄疸を(⑦)という。血清総ビリルビン値が基準を超えた場合は、(⑧)療法を開始する。
- 胎児期に母体から受け取る抗体を(⑨)といい、早産児は母体からの抗体移行が不十分のまま出生するため、免疫力が弱い

解答欄

①	肺・サーファクタント	②	キマーゼ	③	閉鎖呼吸
④	呻吟	⑤	多呼吸	⑥	ヒゲミンク
⑦	核黄疸	⑧	光線	⑨	IgG

*②～⑤は、順不同でも可

3. 次の問で正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。(2点×6=12点)

- (×) 新生児蘇生の初期処置において、ラジアントウォーマー下に収容し、保温を開始すれば、羊水をふき取ることはしなくてもよい
- (○) 新生児仮死が予想されている場合は、蘇生処置の準備が大切である
- (○) 低血糖の症状として易刺激性、泣き声の異常、無呼吸があり、重度になると痙攣が出現する
- (×) 頭位で出生した直後の児の児頭に腫脹を認めた。腫脹は骨縫合を越え、波動を触れず、数日後に消失した。これを頭血腫という
- (×) 頭蓋内出血のうちで低酸素や虚血に伴い発症する脳室上衣下出血と脳室内出血は成熟新生児に多い
- (○) NICUでは成長発育を促すためにディベロップメンタルケアを中心とするケアを行っている。ケア内容は、モニター音を下げる、照度を抑える等の環境を整えること、ポジショニングやファミリーケアが含まれる